

防災安全マップ ～普段から危険な場所等を確認しよう

安全マップを作成する方法や、まち歩き、マップ作成ソフト「デジタルマップ」について紹介しています

1 ねらい

地域の防災設備や危険箇所などを実際に町を歩いて調べ、防災安全マップを作成し、いざという時の災害時に役立てます。

2 必要人数

10名～（何人でも可）

3 必要なもの

用紙、用意が出来れば白地図
筆記用具

各グループ1枚と正書用1枚
人数分（なければグループ1セット）

ちえぶくろ



人数は基本的に何名でも可能です。多い場合はグループに分かれて行うのがよいでしょう。

人数が多い方が地域の危険箇所など、様々な角度や視点から発見することができるでしょう。

4 進め方

- (1) 参加者の方に集まってもらい、どのルートを調査するのか、グループの場合はグループごとでの役割等を決めて下さい。
また、集計用に用紙（白地図）と筆記用具を配ります。
- (2) 準備ができれば実際に地域を調査してみましよう。様々な角度や視点から地域をゆっくり見てまわりましよう。
※ワンポイントアドバイスを参照
- (3) 地域の調査が終了すれば、記入した項目を整理しましよう。グループに分かれている場合は、発表形式にしてもおもしろいと思います。
- (4) 最後に調査した内容を整理し、マップを完成させます。



ワンポイントアドバイス

※まち歩きでチェックする場所を挙げてみました

- ☆防災倉庫・プール・消火栓や防火水槽など（有効利用できるもの）
- ☆行政無線設置宅・屋外拡声マイク・掲示板など（情報入手できる場所）
- ☆コンビニ・風呂屋・ガソリンスタンド・トイレなど（利用できる場所）
- ☆病院・医院・薬局・AED・消防署・派出所など
- ☆避難場所・学校・公園・広場・駐車場など
- ☆危険な場所・物（交通事故多発箇所なども含む）
- ☆その他役立つ場所・物（こども110番の店など）

～防災倉庫の位置と共に、鍵がある場所も合わせて記載しましょう

5 デジタル防災マップソフト 「神戸コミュニティマップ」ソフト

神戸市では、パソコン上で内容を随時更新し印刷が可能なデジタルマップを推進しています。このソフトを使用しマップを作成してみたいという場合は各消防署までお問い合わせ下さい。ソフトをお貸しいたします。

（パソコンとプリンタがあればプリントアウトして配布することができます）

マップに落とし込みたいアイコンを表（凡例）から選びます

アイコンをマップに直接貼り付けるだけでOKです

防災マップの作成例

ちえぶくろ



地域だけでなく、学校内や大規模のマンション内などの安全マップを作成してもおもしろいでしょう。

小さい子供から高齢者まで幅広い年齢の方が参加すれば、それぞれの目線から地域をみることができ、より内容の濃いマップが出来るでしょう。

参加者の方へ・・・

- ☆ 完成したマップを掲示、もしくは出来れば地域の方に配布しましょう。
- ☆ 家庭で地域の危険箇所等や防災について話し合ってもらいましょう。